Ⅱ．植栽計画

Ⅱ.植栽計画　主要な修正項目

Ⅱ. 植栽計画の変更点

分析結果を受け、以下の修正を行った。

●歴史的経緯や現庭園の魅力資源や空間特性から、庭園内を「主景ゾーン」と「誘いゾーン」の２つのゾーンに整理し、各ゾーンの歴史性や空間特性、魅力資源を活かすものとした。

●「庭園を回遊する」という表現は見直し、現在の利用経路を継承する中で、散策する魅力の向上や園路等の改善を図ることとした。

●目標植生の修正はなし。

Ⅱ－1　基本的な考え方

①庭園の位置づけ

計画地は、国際コンベンション施設の庭園であるとともに、若草山への眺望や四季折々の景色、なら瑠璃絵など様々なイベントを通じて一般の来園者が楽しむ庭園でもある。本計画ではこの点を踏まえ、奈良公園を代表する質の高い風景を提供することを目指すものとする。

②歴史的経緯により異なる２つのエリア

本庭園には旧公会堂庭園を継承した部分（吉城川以南）と新公会堂建設時に新設した部分（吉城川以北）があり、植栽や施設の構成、空間の魅力や特性などが大きく異なる。前者は本館と一体となった園遊の庭であり、その主景（メインビュー）と若草山への眺望は本庭園の最大の魅力である。後者は気ままに散策できる庭園であり、季節や場所によって様々に変化する植栽や景色の変化が大きな魅力である。

本庭園の魅力を高めて利用を促進するため、この二つを併せて庭園全体として質を高めていくこととする。

③景観演出の考え方

○主景と若草山への眺望の保全・継承・再生（主景ゾーン）

主景の保全・継承するため、明治期から引き継がれてきた「芝地・瓢箪池・マツの景」を保全・継承するとともに、吉城川周辺や背景となる植栽を適切に管理し、主景と調和させることとする。

主景と一体となった若草山への眺望は、現在生長したクスノキやケヤキなどに視線を遮られているため、これらを伐採して眺望を再生する。

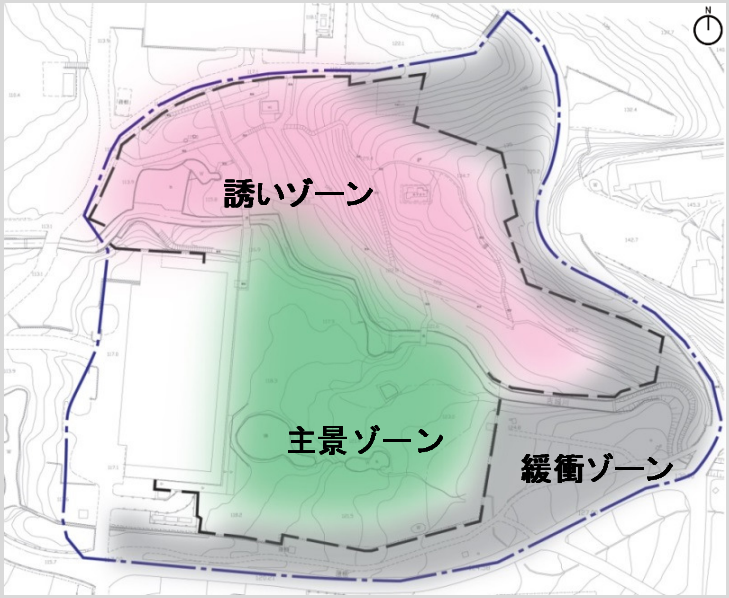
また瓢箪池の南側は、適切な経路が無く魅力資源も乏しいため利用が少ないので、主景に影響を与えない範囲で草花類の導入を行い、新たな魅力と経路を付加することを検討する。

○庭園散策の魅力向上（誘いゾーン）

吉城川以北は、多彩な植栽や地形変化が楽しめる散策できる庭園である。この魅力を一層高めるため、各空間の植栽や眺望等の質を高めるとともに、既存の植栽や景観に悪影響を及ぼさない可能な範囲で草花類の導入を行う。また、園路等の改善・更新など散策に適した施設づくりを行う。

○周辺環境との調和（緩衝ゾーン）

庭園外周部については、春日大社や公園園地など隣接施設と調和を図るとともに、庭園独自の景観や環境を適切に保全するための緩衝帯とする。



④植栽計画で取り組む範囲

本庭園の利用促進のためには、庭園全体の景観演出や誘導が不可欠であり、施設と植栽の両方について改善等の取り組みが必要である。また植栽整備で行う大径木の伐採・搬出などに伴い大型重機の進入が発生し、これが現況施設に大きな影響を及ぼすことも想定される。

このため本計画では、景観演出や工事工程上植栽整備と施設整備を組み合わせて検討・実施する必要があるものについては、本計画で一体的に取り扱うものとする。

Ⅱ－2　計画方針

（1）計画方針

計画方針：
庭園として多彩な植栽や眺望を活かした質の高い風景をつくる
・庭園の主景と若草山への眺望を保存・継承・再生する
・植栽や眺望などを活かし散策する楽しみを向上させる

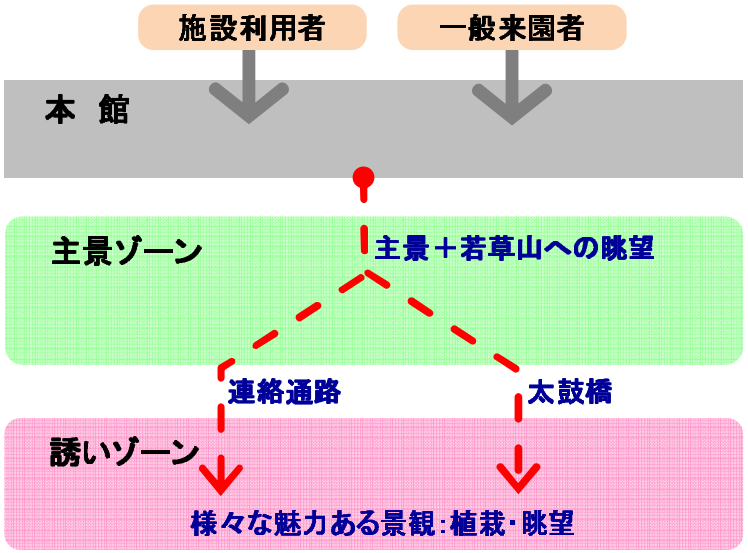


図:基本的な利用経路

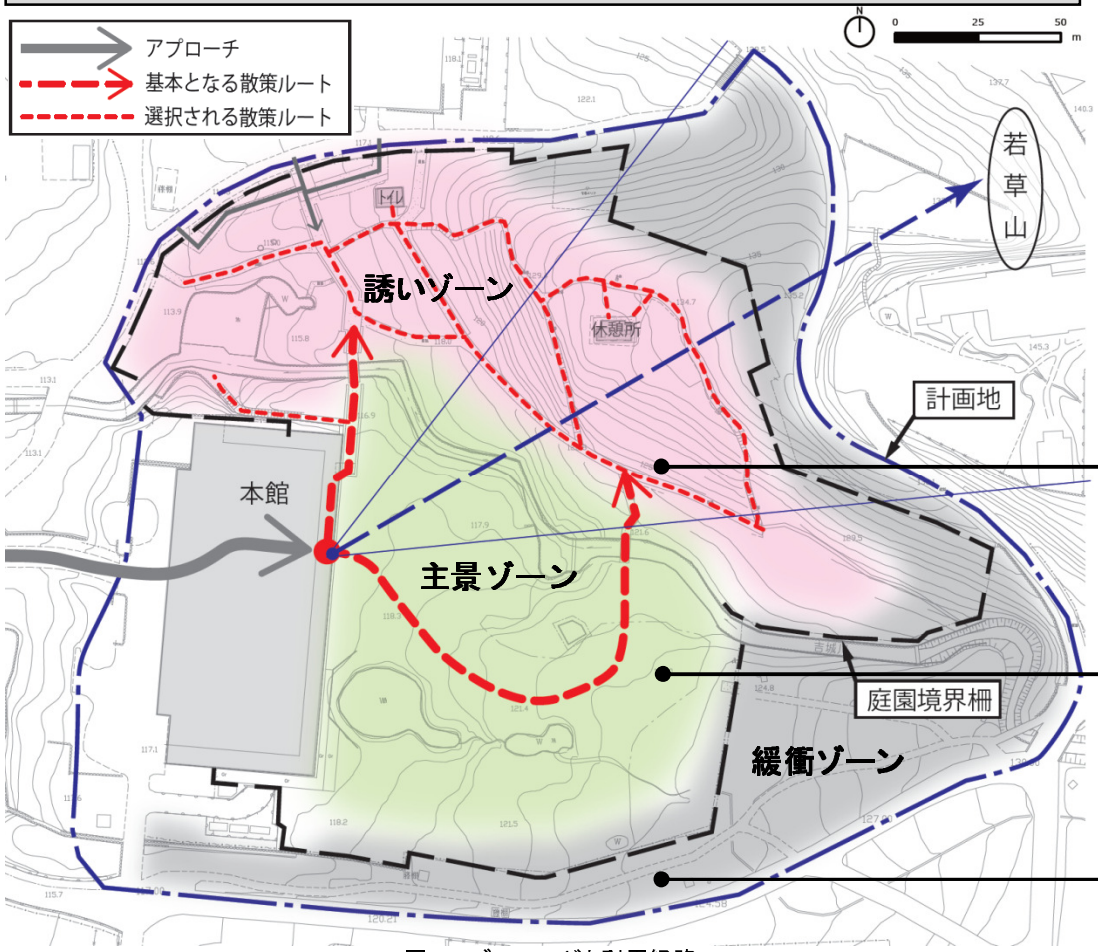


図　：　ゾーニングと利用経路

誘いゾーン：庭園散策の魅力向上。
・魅力資源である花木や眺望の質を高める。
・快適に楽しみながら歩ける環境を整える。
・主景の背景や若草山への眺望の前景にあたる部分は景観の保全に十分配慮する。

主景ゾーン：歴史的価値の保全・活用
・歴史的価値のある主景の芝地、池、マツ等を保存・継承する。
・魅力である若草山への眺望景観を再生する。

緩衝ゾーン：庭園環境の保全と周辺との調和
・背景植栽として既存樹林を保全・継承し、周辺との調和を図る。

Ⅱ－2　計画方針

1）主景ゾーンの方針：歴史的価値の保全・活用
・歴史的価値のある主景の芝地、池、マツ等を保存・継承する。
・魅力ある若草山への眺望景観を再生する。

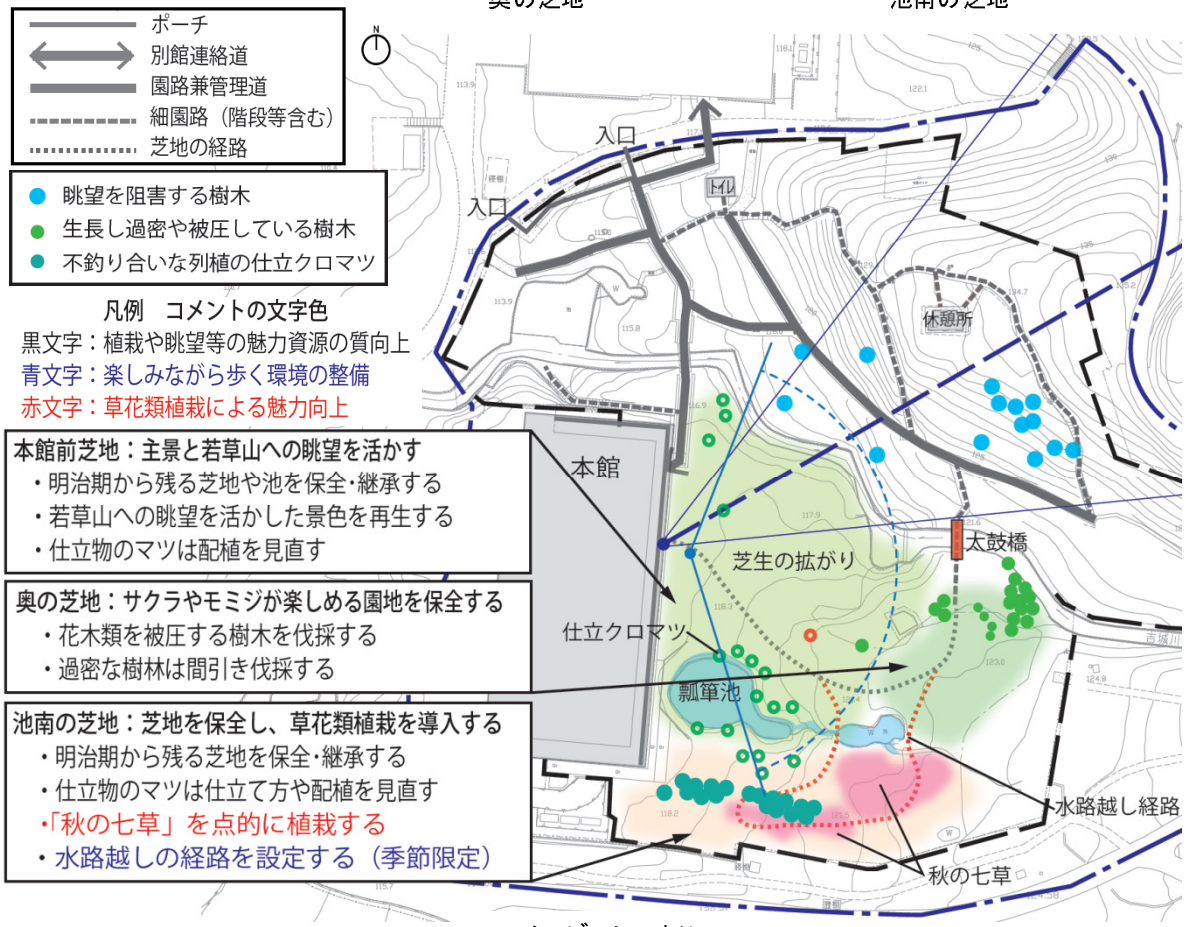
奥の芝地

池南の芝地

【参考】若草山への眺望景観の再生イメージ

現況景観（展葉期の景観）

景観目標像（フォトモンタージュ）



図：主景ゾーンの方針